ご指導　　香川県教育委員会事務局義務教育課　主任指導主事　　笠石　裕子　先生

1　研究テーマについて

国語科授業が、実生活で生きてはたらく力に結びついていくために、活用の場面を組みこんだ単元が展開されることが必要である。そして、「自らが課題を解決していくために、目的意識をもって読む」という子どもたちを育てていくために、単元を貫く言語活動を充実させていくことが必要である。

単元を貫く言語活動については、指導要領解説に示されているが、子どもたちが主体的に取り組むための場の設定を行うことではないかととらえている。

本日の研究テーマの解説の中で、単元構成をどのように考えて授業をつくればよいかが示されていたが、具体例は各部会で提案されている。それらの内容を今後の授業や校内での情報として、他の先生方にも活用してほしい。

2　研修Ⅰ$\boxed{A}$

子どもたちの「やってみたい」と思える言語活動を設定することについて、今後も研究を深めてほしい。二次の学びが三次につながる単元構成となる必然性がでてくることが、子どもたちの「これをやっていこう」という意欲につながる。

3　研修Ⅰ$\boxed{B}$・Ⅱ$\boxed{B}$

若い教師のための講座が継続して行われていることに感謝している。本年度は、セカンドステップとして、「さぬきの授業　基礎・基本」も活用され、香川の教育の優れた指導技術・教材分析の仕方や単元づくりについて、具体的な教材を用いて講座が開かれたのが、大変魅力的であった。また、「単元を貫く言語活動」について、今後も具体的に取り上げてほしい。

4　研修Ⅱ$\boxed{A}$

発問・助言のとりあげ方・ノート指導について、どの報告にも国語の授業を行う上で、教師が心がけている内容が盛り込まれていて興味深く聞いた。

「活動は単純に　思考は複雑に」自立した学習者を育てる教材研究を十分に行う。そして、「ノート指導」では、子どもたちが身につけた読みの技能をまとめて記録していくという報告など、子どもたちが学んだことを自覚できる良い取り組みであった。

5　講話『新聞記事の書き方』

３・４年生の「書くこと」や５・６年生の「読むこと」に位置づけられている。特に４年下「新聞を作ろう」の単元では、今日の内容が現場の授業に生かせることがありがたい。

6　朗読劇

言葉のもつ力はすごいと強く感じた。子どもたちにそういう感動を感じさせることができるために、国語の授業の中でどのように取り組んでいけばよいのかということを思いながら聞かせてもらった。

7　香川の子どもたちの現状

（１）国語の授業について

「授業が好きですか。」の質問に対して、肯定的な回答はとても低く、成績は良いが授業や勉強は好きではないという児童が多い実態がある。その理由として、知的な喜び、子どもたちのやってみようという思いがきちんとある学習が展開されているのか、また活動の見通し・まとめ・ふりかえり・自分が学んだことの価値づけが授業の中できちんとされているのか、と考える。また価値づけにかかわっては、明確な評価「自分ができたな、わかったな」「新しくこういう方法が身につけられたな」という喜びがあるかということを考えたい。

これらのことを踏まえて、子どもたちに有用感をもたせた学習をどのように組み立てていくかを考えてほしい。

（２）「読むこと」「書くこと」について　～中学２年生（３００人）へのアンケートから～

たくさん読む経験の中で、自分が読書に熱中する、また愛読書があるということが読むことへの積極性につながる。そこで、並行読書を単元の中で行ったり、朝の読書活動を進めたりすることで、本を読むことに前向きな子どもを育てることができる。

「書くこと」については、小学校低学年時に文字を書くことへの抵抗感がうまれている。方法をきちんと教わっていないのに、長文を書くことを要求されていることも、要因の一つかもしれないので、低学年時の取り組みに改善の余地がある。

8　最後に

「生きてはたらく国語の力」をつけていくために、どのような授業・単元を構成していくかは、子どもたちを見つめながら考え、実践していくことが大切である。

言語活動については、子どもたちがやってみたいと思える魅力的なものを設定することが必要で、特に「読むこと」では、正確に読むことのみを重視するのではなく、目的に応じて繰り返し必要な部分を読むことや、観点を決めて読むというような指導に目を向ける必要がある。今後、各校で研究を進めてほしい。